新潟市教職員の資質向上に関する指標〔教諭〕※講師・助教諭も準ずる

新潟市教育委員会（令和6年4月）

項目			新潟市が求める着任時の姿	第1ステージ 1 習得期 学級経営，教科指導等の担当業務を中心に，児童生徒と誠実に向き合いながら，授業力の基礎・基本と教師としての素養を習得する		第2ステージ 2 習熟期 校外研修やOJTを積極的に活用して専門性を向上させ，担当業務遂行能力や授業力を高める		第3ステージ 3 充実・還元期 自己の教師力にさらに磨きをかけるとともに，他の教職員が教師力を向上できるように支援する	
A 授業力	ねらいと児童生徒に付けたい力を明確にした授業を構想・展開・評価・改善できる能力・資質	ア 教材解釈・分析	・学習指導要領の指導内容と教材との関連を理解する。	１Ａア	・学習指導要領の指導内容と児童生徒の実態を基に、教材とねらいとの関係を把握する。	２Ａア	・教科・領域の専門性を生かして、複数の教科書を比較検討するなどして、適切な教材を選択する。	３Ａア	・教科書教材の価値を理解するとともに、授業のねらいに基づいて新たな教材を開発する。
		イ 授業構想	・授業のねらいに基づいて、主体的・対話的で深い学びとなるような学習活動を設定する。	１Ａイ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の実態を踏まえて、主体的・対話的で深い学びとなるような学習活動を設定する。	２Ａイ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の学習状況を確認しながら、主体的・対話的で深い学びを構想する。	３Ａイ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の学習状況に合わせて、主体的・対話的で深い学びを構想する。
		ウ 授業展開	・授業のねらいに基づいて、主体的・対話的で深い学びとなるような学習活動を展開する。	１Ａウ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の実態を踏まえて、主体的・対話的で深い学びとなるような学習活動を展開する。	２Ａウ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の学習状況を確認しながら、主体的・対話的で深い学びを具現する。	３Ａウ	・授業のねらいを明確にし、児童生徒の学習状況に合わせて、主体的・対話的で深い学びを具現する。
		エ 指導技術	・板書や発問等の基本的な指導技術を知り、それらを用いて授業を行う。	１Ａエ	・場面や児童生徒の状況に応じて、基本的な指導技術を用いて授業を行う。	２Ａエ	・専門的な知識や指導技術を効果的に活用して、学び合う授業を行う。	３Ａエ	・個別の指導だけではなく、児童生徒の反応に基づき、学び合う授業をコーディネートする。
		オ 指導と評価・改善	・授業のねらいを基に一人一人を評価する。 ・自己の授業を振り返って、改善点を見いだす。	１Ａオ	・授業のねらいを基に一人一人を評価し、必要な補充を行う。 ・他の教師からの指導・助言を求めて、授業改善の方策を考える。	２Ａオ	・明確なねらいを基に一人一人を評価し、個に応じた指導をする。 ・評価規準に基づく自己評価から、自己の授業力の課題を明確にし、具体的な改善策を示す。	３Ａオ	・明確なねらいを基に、個に応じた指導をしながら全体で学習課題の解決を図る。 ・他の教員の指導上の課題を適切に指摘し、改善のポイントを指導・助言する。
		カ ICTや情報・教育データの利活用	・ICT機器の基本的な操作方法、情報モラルについて理解する。	Ａカ	・教育活動全般で学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」を育成・活用しながら、各教科等の「資質・能力」を育成する。 ・ICTの利活用を前提としたこれからの社会の中で、安全を守りながら、責任をもって行動する方法を理解させ、法を守り、倫理的にふるまう能力とスキルを育成する。				
		キ 支持的風土づくり〈授業づくり〉	・友達と協力して課題を解決する場を設定する。	１Ａキ	・授業のねらいに基づいて、グループなどで対話する場を適切に取り入れる。	２Ａキ	・異なる見方・考え方を認め合い、よりよい結論を導き出せるよう働き掛ける。	３Ａキ	・対話によって協働が生まれ、思考が深まるよう、他の教員に指導・助言する。
B 組織マネジメント力	児童生徒理解と集団状況の把握、対応・運用のできる能力・資質、学校運営に参加する能力・資質	ア 支持的風土づくり〈児童生徒理解〉	・児童生徒相互のかかわりについて，実態把握の方法を知る。	１Ｂア	・児童生徒相互のかかわりについて、実態把握、分析、活動の方法を知り、よりよい集団づくりを目指した活動に児童生徒と共に取り組む。	２Ｂア	・集団づくりの方法を適切に取り入れながら、児童生徒の自立に向けた活動を実践する。	３Ｂア	・望ましい集団づくりの方法について、他の教職員に指導・助言する。
		イ 特別支援教育	・共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育システムを理解する。	１Ｂイ	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりをする。 ・「個別の教育支援計画」の作成を通して、必要な情報を収集し、支援する。	２Ｂイ	・児童生徒の実態に応じた個別指導を有効に取り入れて指導する。 ・学習・生活場面において「個別の教育支援計画」を活用し、合理的配慮を確実に提供する。	３Ｂイ	・分かる授業づくりや児童生徒に応じた指導方法等について、他の教職員に指導・助言する。 ・蓄積した合理的配慮を校内で共有し、特別支援教育を全校体制で推進する。
		ウ いじめ・不登校	・「生徒指導提要」「新潟市生徒指導リーフレット」等に基づいて，生徒指導に関する考え方を理解する。	１Ｂウ	・一人一人の児童生徒の実態や状況を多面的に理解・把握し、児童生徒との信頼関係を築く。	２Ｂウ	・いじめ・不登校の課題を抱える児童生徒及びその保護者に対して、教育相談や家庭訪問等を通じて適切な支援を行う。	３Ｂウ	・いじめ・不登校校内対策委員会をコーディネートし、具体的な対応策を講じるとともに、関係機関と連携して迅速に課題解決する。
		エ 危機対応	・学校にかかわる様々な危機への対応策を理解する。	１Ｂエ	・情報を確実に把握し、確実に児童生徒を避難させるなど危機回避に向けて対応する。 ・相手の訴えや要望を傾聴し、気持ちを受け止めるとともに、管理職に報告し情報を共有する。	２Ｂエ	・危機を未然に防ぐため、あらゆる場面を想定した事前指導を確実に行う。 ・相手の意図を的確に把握し、事実確認のための情報収集及び調査結果の伝達を確実に行う。	３Ｂエ	・全校的な視野に立ち、安全安心な学校づくりに向けて他の教職員に指導・助言する。 ・チームとして課題に対する解決策を考えるとともに具体的な取組を示し，素早く対応する。
		オ 人材・資源の活用	・地域教育コーディネーターや社会教育施設関係者等の役割や仕事内容を理解する。	１Ｂオ	・地域に積極的にかかわって地域の人材・資源を知るとともに、地域教育コーディネーターや社会教育施設関係者等の役割や仕事内容を理解する。	２Ｂオ	・地域教育コーディネーターや社会教育施設関係者等の情報を基に、有効な人材・資源の活用方法を考え、実践する。	３Ｂオ	・学校教育ビジョンや児童生徒の実態に応じた人材・資源の活用方法を考え、実践する。 ・有効な人材・資源の活用方法について、他の教職員に指導・助言する。
		カ 学校教育ビジョン	・新潟市教育ビジョンを理解する。	１Ｂカ	・自校の教育ビジョンと新潟市教育ビジョンの関連を理解する。 ・自校の実態と教育ビジョンを関連付け、適切な目標のもとで担当分掌の業務を着実に遂行する。	２Ｂカ	・数値やアンケート等、適切な方法で到達状況を評価する。 ・評価結果を生かして担当分掌の成果と課題を確認し、業務を改善する。	３Ｂカ	・全校的な視野に立ち、教育計画の作成推進・改善に参画する。
C 人間力	教員としての適切な言動・人間関係づくりを基盤に熱意をもって職責を遂行する能力・資質	ア 使命感・熱意	・絶えず研究と修養に励み、学んだことを生かす意欲がある。	Ｃア	・絶えず研究と修養に励み、それぞれの立場で学んだことを実践に生かす。 ・職務や役割を十分自覚し、責任を回避せずに最後までやり遂げる。				
		イ コンプライアンス	・法令や「新潟市における法令遵守の推進等に関する条例」を理解する。	Ｃイ	・法令や「新潟市における法令遵守の推進等に関する条例」を遵守する。 ・教育公務員としての誇りをもって自己を成長させ、高い倫理観と責任感をともなった行動をとる。				
		ウ 社会認識・識見・礼儀	・社会的な常識や社会人としての望ましい習慣を理解する。	Ｃウ	・社会的な常識を踏まえ、社会人としての望ましい習慣を身に付け、ＴＰＯに応じた行動をする。 ・社会状況及び教育的動向を把握し、自ら課題を見いだす。				
		エ コミュニケーション	・目上の人や友人と積極的に接し、協同的な人間関係をつくる。	Ｃエ	・児童生徒、同僚職員、保護者、地域の人等の声を敏感に感じ取り、他者の立場で考え共感できる感受性を持ち、協同的な人間関係をつくる。				
		オ セルフマネジメント	・自己の特性を理解し、その時々でモチベーションを維持して活動に取り組む。	Ｃオ	・自己の特性を理解し、業務の結果を常にフィードバックしながら目標達成に向けてモチベーションを維持して仕事に取り組む。 ・節度ある生活を心掛け、心身の健康を維持する。				
		カ 対応力・創造力	・新しいことに積極的にチャレンジする。	Ｃカ	・様々な課題に対して臨機応変に対応する。 ・これまでの概念にとらわれず、幅広い視点で発想できる創造的思考を持ち、新しい発想で改善や提案を行う。				